

## 小学校段階4年 体育「走り幅跳び」「高跳び」「マット運動」等

### ア 活動の概要

走り幅跳び、走り高跳び、マット運動、跳び箱運動など、各運動の技能を高めるために、端末のカメラ機能とロイロノートを活用した。

### イ 活用したアプリ

#### a ロイロノート「カメラ」

2、3人の小グループを作り、ロイロノートのカメラ機能で互いの演技を撮影する。撮影した動画は、ロイロノートの機能「0.5倍速」などのスローモーションで確認したり、手本の写真と見比べたりして話し合った。

#### b ロイロノート「提出箱」

単元の途中で、撮影した動画をロイロノートの提出箱に提出させ、友達の演技を参考にさせた。教師はその動画を授業後に確認することで、評価に生かすことができた。

#### c ロイロノート「資料箱」

自分の好きなタイミングで参考にしたり、自分や友達の動きと比較したりできるように、NHK for Schoolの「はりきり体育の介」にある参考資料（PDF資料）をアップロードしておいた。

### ウ 成功のコツ～チーム学校として～

#### a Wi-Fiの確認

教室、特別教室、校舎外など、Wi-Fiが届く範囲についての情報を共有しておく。

#### b 授業の環境整備

電子黒板を用意して、手本の動画を見せたり、活動を振り返ったりした。児童の画面を映すこともできるため、提示装置があるとよい。

自分の演技をするときには端末を自分の手から離れた場所に置く必要があるので、「授業開始や準備運動のときはステージの上に置く」「活動時は各グループ専用カラーマットの上に置く」など、活動中に踏んで破損することがないようにした。

#### c 留意点

タブレットを操作する時間が長いほど、練習にかける時間が減ってしまう。そのため、タブレットで何をするのかについて明確にすることにより、端末の操作時間を最小限にした。また、練習と学び合いのどちらに重点を置いた授業にするのか、授業ごとにメリハリをつけた。



【 活動の様子 】

d 他の授業への転用

個人やグループごとに映像で記録を取る、振り返る、細かく分析するなどの活動は、理科の実験など様々な場面において有効である。

エ 成果と課題

a 成果

- ・観点を明確にして振り返ることと、手本と比較することにより技能の向上につながった。
- ・自分を客観的に見ることが、新たな気付きになっていた。

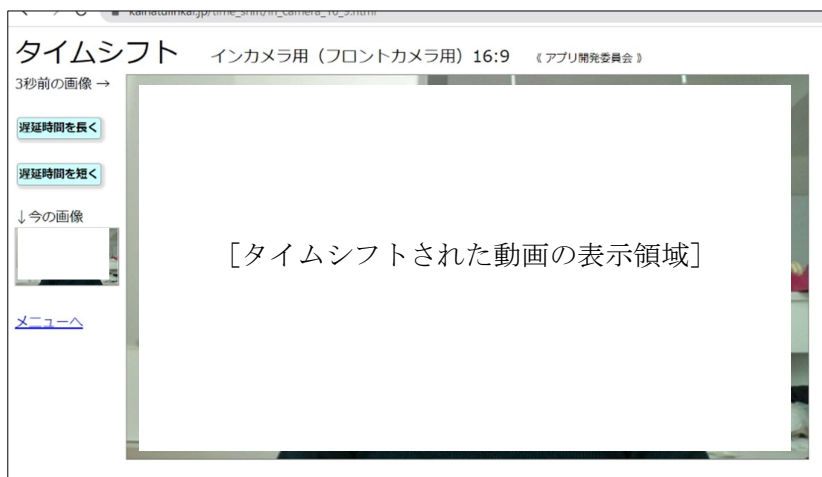
b 課題

- ・稀に Wi-Fi 接続が切れてしまい、動画が保存されないことがあった。何度か実践していると児童もそういった事態に慣れ、各自が解決できるようになった。頻繁にこのような現象が起こるようなら、プリインストールされているカメラアプリを使い、後でロイロノートにアップロードするとよい。
- ・幅跳び、高跳び、跳び箱などでは動きが速いため、スロー再生しても残像が大きくなってしまふことがある。

オ その他

- ・タイムシフト再生ができるアプリの活用

「アプリ開発委員会 奥田昌夫」 [https://kaihatuinkai.jp/time\\_shift/](https://kaihatuinkai.jp/time_shift/)



【 実際の画面 】

- ・Web カメラで撮影した画像を遅れて表示できる。遅延時間は1秒～30秒まで設定可能。
- ・Web ページ上で作動するため、インストールやログインが不要である。  
Windows10 (GoogleChrome、MicrosoftEdge)、chromebook に対応。
- ・マット横などにタブレットを固定し、数秒後に設定しておくことにより、練習→自分の演技の確認→列に戻る→…と、児童が自分たちだけで連続して活動することができる。タイムシフト再生があることにより、演技終了後に児童が素早く次の行動に移る、振り返りをしたことをすぐに生かすことができる、教師がアドバイスや支援に専念できるなどのメリットがある。